

元気です！— 会員企業ご紹介 —

日本とロシアの貿易業務を トータルでサポート！



小樽港は、北海道におけるロシア貿易の拠点として、昔から多くのロシア船が入港していました。現在でもロシアでは、品質の高い日本車の人気が高く、小樽港からロシアへ輸出される中古車は道内の9割以上、小樽港のロシア貿易額は北海道全体の約8割を占めており、多くのロシア船が小樽に入港しています。そのロシアと小樽港・石狩湾新港における船舶代理店として、先代(父親)が平成6年1月に(有)エッチアンドエスエーゼンシーを設立しました。

● 小樽とロシアをいっしょに

小樽市内には、外国船舶に対応した代理店が数社あり、当社も小樽港に入港するロシア船の入港から出港までの諸手続きを代行しています。佐々木彩乃社長は、大学時代にロシアに語学の短期留学の経験があり、帰国してからも更にロシア語を学びたいと考え、アルバイト感覚で父の会社を手伝っていました。

ロシアに触れる機会が多かったことから、大学卒業後は自然の流れで父親の会社に就職しました。

せん。当社には、ロシア語が堪能な社員が正確かつ丁寧なサービスを心掛けて接客しています。相手との信頼を築くことが大切で」と佐々木社長はお話しています。船が入港すると1週間ほど停泊します。停泊中に、船員が体調を崩すなどした場合は、病院へ同行し通訳のサポートも行います。中には手術が必要なケースもあり、専門の通訳を手配することもありました。その他にも、貨物客船で来日するロシア人をアテンドできるよう旅行業認可を取得しました。船員のみならずさんが停泊期間中も有意義に過ごしてもらえるよう、できることは何でもする”ことを心掛けています。

佐々木彩乃社長



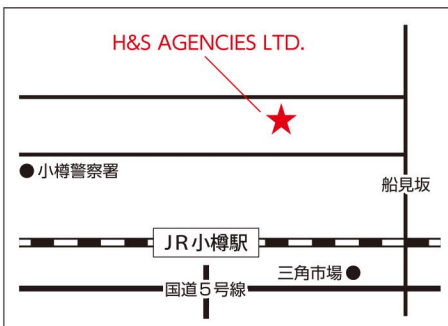
● チームワークを大切に

佐々木社長は「書類が足りない、入港スケジュールの変更、天候不良で接岸できない、船員が体調を崩す、雪道で転倒してケガをするなどトラブルが発生することもあります。社員みんなで協力しながら、これまでも対応してきました。順調に事業を続けることができているのも父の教えと社員のおかげです」と話してい

「お客様が利用しやすい環境づくりを進めながら、貿易に関する幅広い業務・ニーズに対応しています。実際に現場で、船舶の接岸に立会い、荷役(貨物の輸送・保管の際の積みみや荷下ろし、倉庫への入出庫・仕分作業)の確認や船長との打合せを行うことが多くあります。そこで、重要になるのが「言葉」です。貿易業務には、専門的な用語が多く、船長や船員と円滑にコミュニケーションをとることが大切で、意思疎通を図るロシア語は欠かせま

ました。社員の高倉さんが「休日や帰宅後に起きたトラブルは、社長に対応をお願いすることがあります。そんな時でも快く対応してくれる社長は行動力と責任感の強い方です。笑顔が素敵で気さくに話や相談ができ、働きやすい職場です」年齢も近い社長と社員のみなさんは、アットホームな職場環境で日々業務にあたっていると感じました。

貿易と物流を結ぶだけではなく、お客様とのつながりを大切に、これからも未永く安心して利用していただける船舶代理店として小樽とロシアをつないでいってほしいです。



小樽市富岡2丁目5-6
TEL 27-4000



(左) 田辺さん (中央) 佐々木社長 (右) 高倉さん

会社を継ぐとは全く考えてなかったのですが、先代から船舶代理業務全般、経営ノウハウを学ぶうちに、ロシア語を活かせる環境と代行業務を通じて、小樽とロシアをつなぐ仕事にやりがいを感じ、平成19年10月、30歳の時に経営を引き継ぎました。港湾の世界は男社会のイメージが強く、不安を感じることもあったのですが周囲に助けられ、今年で設立25年になります。

当初、通関(貿易に関する手続き)手続きを行っておらず、お客様は別の業者を手配しなければなりません。そこで、お客様の利便性を図るため、社員の田辺さんが難関といわれる通関士の試験勉強と仕事を両立して、みごと合格。平成26年4月に通関業の登録を受けました。

これで通関手続きが一貫してできるようになった他、輸出する中古車等を保管するための自社ヤードを設置、本船に積み込むまでを全て行うことができるようになりました。

現在、お客様のために自社ヤードを「保税蔵置場」として申請しています。許可が降りると、輸出入する商品を保税蔵置場で保管ができるため、流通コスト削減につながります。